

校長室から

令和2年7月2日

これぞ長中の生徒会長

このような状況だからこそ・・・

先日、給食時間の放送で、生徒会長のS・R君から、下記のようなメッセージが全校生徒に届けられました。私は、突然の放送で、びっくりしながら、R君のメッセージを聞いていましたが、とても胸が熱くなりました。3年生にとって、そして自分にとって、諦めきれない思いや割り切れない思いを受け入れながら、なんとか少しずつ前に進みたいという意志が感じられ、とても立派な意見表明だと感じました。もう一度、全校生徒、そして、教職員、保護者の方々に共有したいと思いました。

皆さん、こんにちは 3年3組のS・Rです。学校が再開して、1ヶ月を迎えようとしています。みなさんは、新しい生活様式には慣れましたか。1年生のみなさんは環境も大きく変わり、慣れるのはまだまだというところでしょうか。2年生のみなさんは、いつのまにか後輩が出来て、先輩という立場に戸惑っているでしょうか。

私たち3年生は、中総体や修学旅行、そのほか中学校生活最後となる行事が次々と中止、または延期となり、気持ちにふんざりがつかないまま、受験に向けて切り替えていかなければいけない状況です。私の周りの友達も平然と毎日を過ごしていますが、あきらめきれないほどの思いは痛いほど伝わってきます。しかしこのような状況だからこそ、気持ちを切り替え、考え方を変えていかなければなりません。先日、テレビで元大阪府知事の橋下徹さんがこのようなことを話していました。「人生が不安とか、将来分からないとか、そんなところで悩むべきじゃない。がむしゃらに行動して、チャンスをつかみ、完全燃焼した結果が納得できる人生になる。」そして「燃焼できる環境は35歳までに見つけるべき」橋下さんは、「時間を取り戻せるなら全財産を払ってもいい。」と言っていました。つまり時間には限りがあるのです。私たちには、まだそれがあります。

新型コロナウイルスによって、何気ない日常や人のかかわりが、どれ程かけがえのない時間だったかということ、多くの人に支えられて今の生活ができていることに改めて気付かされた人もいないでしょうか。

私たちは、この経験を生かし、限られた時間を大切に、今、本当にやるべきことは何なのかを考え、がむしゃらに行動してみませんか。がむしゃらに行動し、未来を切り開くチャンスをつかみ、これからの中学校生活が良い思い出になるように過ごしましょう。

本日、帰りの会で委嘱状が配付されます。本来なら私、生徒会長の方から皆さんに委嘱状を渡したいところですが、この状況のため、それはできません。しかし、自分の委員会活動に責任をもち、真剣に委嘱状交付式に取り組みましょう。

3年生全体の気持ちを代弁したり、そして自分の気持ちを整理したりしながら、生徒の代表として、全員の前で語りかけるという事は、とても勇気がいる事だと思います。さすが、長町中の生徒会長です。とても嬉しく思います。

3年生だけではなく、1、2年生にも失われたものが数多くあります。卒業式、入学式、先輩や後輩との別れ、学校行事、転校していく友達との別れ・・・。それでもR君からのメッセージのようにこの状況を、少しずつプラスに変えていきたいですね。